

6月15日(月)

大いに賛美されるべき神様

聖書朗読 詩篇 96編

主は大なる方。大いに賛美されるべき方。

その偉大さを測り知ることができません。

詩篇 145:3

主に歌を歌いましょう。そうすることが正しいことだからです。神様ご自身について歌ってみましょう。どんなに、そしていつまで歌っても、主の全てを歌にあらわし切ることにはできないでしょう。それでも主の歌を歌いましょう。主がどんなに素晴らしい方か、皆に伝わるように、大きな声で、絶えず歌いましょう。

主はなんと素晴らしい方でしょう。大いに賛美されるべきですし、同時に畏敬されるべき方です。ヒトの作ったまがい物の「ブリキのカミサマ」などとは違います。まさに「いと高き神」であられ、あなたや私を含めて、全てを創りたまひし方であられるのです。

誰しも、すぐに、そしてどんな時も主を礼拝し、賛美すべきです。主を見上げ、主について語り、持てる全てを持って主に栄光をささげるべきです。私たちのどんな行いにも、主を賛美する姿勢が表されるべきなのです。魂の奥底で主の畏敬を起こさせるほどの偉大さについて熟考し、自分が変わっていくのを体感しましょう。

愛し、崇拝する主について周囲に語りましょう。主は全てを統べ給う方なのです。地上の全てを裁く方であられます。裁きはいつでも正しく、間違うことはありません。

主に、主を賛美する歌を捧げることは、わずかなことではあっても、主への最も自然な「お返し」になります。世の被造物は全て主との再会を待ちわびて喜びの歌を歌います。あなたはいかがですか？

讃美歌 第二編 69

祈り いと高き神様。あなたは大いに賛美されるべき方です。ですから、あなたを賛美申し上げます。私たちは、賛美と自らの人生を供物としてお捧げします。香り高い捧げ物でありますように。

イエス様の尊きみ名を通して。アーメン。

スティーブ・スチュワート
ニュー・メキシコ州 グランツ

今日の力

2015年6月15日～6月21日

翻訳 箕作玲子

編集 岩田欣三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

6月16日(火)

いつでもベストを

聖書朗読 詩篇 122編

あなたの土地の初穂の最上のものを、あなたの神、主の家に持って来なければならない。
子やぎを、その母親の乳で煮てはならない。 出エジプト 23:19

子どもたちがまだ幼稚園に通っていた時のことです。幼稚園から帰ると、娘は持ち帰った作品を誇らしげに冷蔵庫に貼り付けて見せてくれました。ところがふと気がついてみると、息子の方は幼稚園から何も持って帰らないのです。「どうして」と息子に問うと「だってママ、どうせ見ないじゃん」。どきっと心が沈みこみました。

その日から、娘と息子には、取り組んだ課題や作品、自由に描いた作品でも、全て見せてくれるように頼むようにしました。そして学芸会、水泳の競技会、野球の試合、奏楽部の演奏会・・・全て、子どもが参加した行事は欠かさずに観に行くようにしました。

子どもたちは何をしても、親である私に自分の努力する姿を見ていて欲しいと願ってくれます。その思いの強さには感動させられます。父なる神様も、私の心の中や、努力する姿や成果を見てくださっています。私のことを気にかけてくださり、愛して下さいます。私たちは、神様に見ていて欲しいと願っていますし、実際に神様は見ていてくださっているのです！

全てはあなたに与えられたもの。

主よ あなたが委ねてくださったもの。

これらの賜物をあなたに仕える者として

感謝していただき

あなたがみ恵みを与えてくださるように

よろこびを持ってあなたに初穂をささげられますように。

—ウィリアム・W・ハウ

讃美歌 270

祈り 父なる神様。私たちの罪を赦したまえ。どのようなことをしていても、どこにいても、いつでも、あなたを第一に覚えることができますようにお導きください。あなたに「初穂」、つまりベストをささげることができますようにお助けください。

イエス様の尊きみ名を通してお祈りいたします。アーメン。

レネット・ライリー・パーク

フロリダ州 ジャクソンビル

6月17日(水)

尽きることのない感謝

聖書朗読 詩篇 136:23～26

主に感謝せよ。主はまことにいつくしみ深い。その恵みはとこしえまで。

詩篇 136:1

過去への思いだけでは、信仰を保つことはできません。エルサレム巡礼に向かう旅人たちは神のとこしえまでの恵み、つまり愛について詩篇136編を歌いました。過去に受けた愛のみ業と現在も見られる愛のみ業の両方についてです。この詩篇では、神が天地を創造するところから、日々の糧をお与えくださることまで歌われています。過去において、神は天地を創造されました。現在でも『主は私たちが卑しめられたとき、私たちを御心に留められ』、『すべての肉なる者に食物を与えられる』（23節、25節）のです。これら、現在に見られるみ恵みも神の『大いなる不思議』なのです(4節)。神のとこしえまでの愛、神聖なるお約束、愛に満ちたご留意、そして非合理なまでの愛なる誠実さからもたらされるもののなのです。人智を超える愛の賜物なのです。

創造者、救い主、み恵みをお与え続けられる主の不思議なみ業によって明らかとされる神の善良さこそ、イスラエルの民の尽きることのない感謝を生み出しました。

今日の私たちもまた同じです。

神の愛はとこしえまでであり、尽きることがないのです！

讃美歌 第二編 42

祈り 天にましますわれらの父よ。私たちの心を開き、その思いをきよめてください。愛に満ちたあなたのご臨在を感じ取ることができますようにお導きください。そして、日々、あなたへの感謝を持てますように。

イエス様のみ名を通して。アーメン。

クレッグ・ボーマン

ミシガン州 ロチェスター

6月18日(木)

神様のために心を見守る

聖書朗読 箴言 4:23~27

力の限り、見張って、あなたの心を見守れ。いのちの泉はこれからわく。

箴言 4:23

礼拝の終わったある日曜日の午後、教会のロビーで遊んでいた教会員の小さなお嬢さんが誤ってガラス製の花瓶を倒してしまいました。花瓶は床に倒されるやいなや、粉々に割れました。私は直感的に女の子に駆け寄り、怪我から守ろうと彼女を抱き上げました。女の子は割れたガラス片がいかにも危険な物かすら理解していませんでした。

箴言4章は私たちに『心を見守れ』と促します。私たちは身近に潜む危険になんと無頓着で無警戒であることでしょうか。心を守るには用心深い注意力が必要です。また、うわさ話や立腹、冷笑などを油断なく意識することを要します。これらは私たちの心を危機にさらすのです。心を見守るためには、イエス様を常に見上げることです。イエス様こそ私たちの心を守られる、最も確かなお方です。

私たちは同じ方向を向いて進みながら、それぞれの道筋を進んでいます。私たちが心に持つ一つ一つの思いも、人に話すみことばも、愛から湧き出る行動も、全てイエス・キリストに近づけてくれます。主こそが道なのです。

讃美歌 463

祈り 愛します神様。私たちの心は気がつくやうに、あなたから離れてしまっております。この世的なものから自分の心を見守ろうという思いをどうぞ強めてください。あなたが私たちを愛してくださるやうに、私たちもあなたを愛せますやうにお導きください。

イエス様のみ名を通して祈り申し上げます。アーメン。

ブレット・ハウアー

オハイオ州 ベルプレ

6月19日(金)

愛ゆえの注意

聖書朗読 イザヤ 8:11~17

私は主を待つ。ヤコブの家から御顔を隠しておられる方を。私はこの方に、望みをかける。
イザヤ 8:17

イザヤは、神の道を行くべく、強情なユダ王国とエルサレム王国の民に注意を喚起するという難しい使命を与えられました。彼は報いとして、感謝されるどころか、反逆の疑いをかけられてしまいました。イザヤは謀反人だということです。聖書に陰謀は何回も登場します。ダビデ王に対する息子アブシャロム、ペカ王を殺そうと企むホセア、命を長らえようと走ったアマツヤ。しかし、イザヤが謀反人とは。

神様はイザヤを、注意を促すために用いました。ユダの人々を愛し、ご自身の許へと戻ってほしいと願っていました。だからこそ、彼らに真実を伝え、判断を迫ったのです。しかし、ユダの人々は神様よりもアッシリアに信頼を寄せてしまい、陥落しました。神様は、自滅を止めませんでした。

神様は無常でも冷酷でもありません。ユダの人々の帰還を望まれていました。しかし、道を選ぶのはあくまでも彼ら自身でなければなりません。ユダの人々が神様を拒絶した時、神様の愛は、彼らのひ孫やその先の子孫に向けられました。そこでイザヤに預託された注意の言葉が後世まで残るやうに手配され、はねつけられたご自身の愛と真実をいつでも確認できるようにされました。ユダの人々の子孫が神様を信じるやうに。そして戻ってくるやうに。

神様は常に愛と真実の方でいらっしゃいます。つまずきの岩でなく、聖所であられたいと願っておられます。神様の語られる真実は、私たちが受け入れさえすれば、命と平安をもたらします。ユダ王国の時代にもそうでありましたし、今でもそうです。

讃美歌 第二編 191

祈り 父よ。全ての歴史の主なる神よ。今でも私たちを愛し、真実を与えて、信じるのを待ってくださることに感謝します。今日のこの日も、あなたのあわれみにすぐに応えられますやうにお導きください。

主の御名を通して。アーメン。

ビル・アドコックス

オクラホマ州 ベサニー

6月20日(土)

神様の栄光の大路

聖書朗読 イザヤ 35章

そこには大路があり、その道は聖なる道と呼ばれる。・・・これは、贖われた者たちのもの。
イザヤ 35：8

本日の聖書箇所で預言者イザヤは、贖われた者を救うために主が素晴らしい栄光をもって再臨される時を描きます。地の美しさが一斉に花開き、荒地に川が流れ、目の見えない者、耳の聞こえない者、口のきけない者、足のなえた者の苦しみが歓喜に変えられる時です。罪を贖われた主の民は恐れのない大路を歩み、喜びに満たされ終着点に向かいます。

今、私たちは干ばつの季節にありますが、渇いた土にやっと雨が降ると、歓喜が起こりますね。渇いた地面が水をいっぱい吸って一日ほどたつと、畑は一面に「レイン・リリー」と呼ばれる花に覆われます。小さな白いつぼみをつけた植物が地より芽吹くのです。まるで自然界全てが水の「再来」を喜び歌っているかのようです。神様は素晴らしい。

贖われた者たちが聖なる大路の旅を終えた時の歓喜を想像できますか。歌いながらシオンに入ることでしょう。とこしえの喜びが冠となって彼らの頭を飾るでしょう。彼らは喜びに満たされ、悲しみやため息は居場所を失って逃げ去るでしょう。

讃美歌 216

祈り 愛します主よ。あなたの再来をお待ちしております。主イエスよ、早くいらしてください。

あなたの尊きみ名によってお祈り申し上げます。アーメン。

ジョイス・ハーディン

テキサス州 オースティン

6月21日(日)

空と天を見上げて

聖書朗読 詩篇 86：1～10

まことに、あなたは偉いなる方、奇しいわざを行われる方です。あなただけが神です。
詩篇 86：10

干ばつ。続く厳しい干ばつ。更に極度の干ばつ。そして異常な干ばつ。見るに耐えないものでした。それは長く続きました。落胆ばかりさせられました。苦痛ですらありました。夕方のニュースで気象情報を見るのもやめてしまうほどでした。毎日がっかりさせられることが嫌になっていました。明るいはずの5月を飾る、生気のない、茶色に枯れた風景は真に気のめいるものでした。またも。4年連続でした。

誰にも天候を変えることはできません。誰にも雨をつくりだし、降らせることはできません。ワタ畑のど真ん中に構えた高価な農業用の機械には驚くような機能がたくさん着いていました。しかし、この機会にも雨雲を作り出すことはできませんでした。神に干ばつを終わらせ、雨を降らせるように祈る以外、仕方がありませんでした。多くの者が祈りました。神にお願いし、嘆願しました。ついに神は雨を恵んでくださり、地はまた命を吹き返しました。

神への全くの依存と信頼。私たちは、本当は毎日、その中で生きています。ただ、そのことに気づかないでいることもまた多いのです。私たちは生活の中で、自分たちの力でどうにかなるものがたくさんあります。ですから、何事も自分たちの力でどうにかなれると思ってしまうがちです。しかし、やがて神だけが確かなお方で、全てを統べる唯一の至高のお方だと思ひ出させられる事態に遭遇します。今日は、そのことを喜びをもって認めましょう！

讃美歌 77

祈り 天にまします神様。偉大な神であられるあなたを賛美いたします。始まりの時より、あなたは人智を超えるみ力と愛とをもって、あなたの造られたこの世界を統べたまわっています。慈愛に感謝いたします。

イエス様の名を通して。アーメン。

トレイシー・ホーン

テキサス州 アバーサニー